

※口絵6〜7頁のカラー広告もご覧ください

# 千代石(株) (横浜市神奈川区) の相縁本部が本格始動 新オフィスで第2章へグレードアップ



新オフィスにて、河東田社長（中央左）と相縁本部のスタッフ3氏。左の女性が相縁本部長の中村司氏、右端が設計・工事担当で一級建築士の資格をもつ岩永和丸氏（千代石設計部）、中央右がクリエイティブディレクター（販促・デザイン担当）の大竹伸一氏



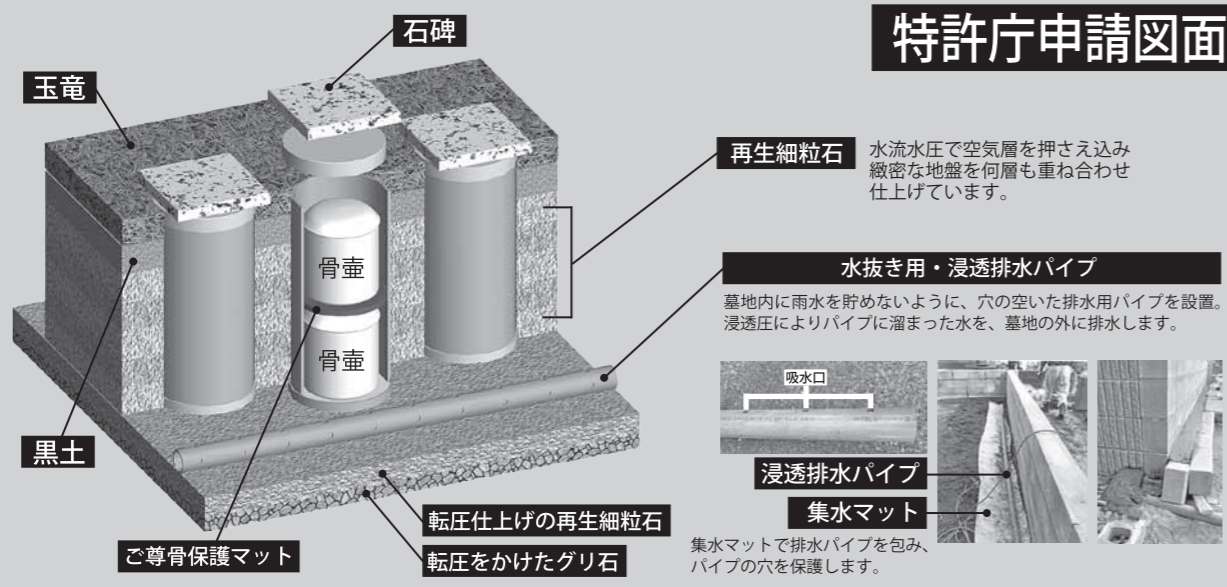
新オフィス（相縁本部）が入ったJR東神奈川駅前のビル

苦戦する一般墓地をよそ目に、いまやお墓の主流となりつつある樹木葬墓地。異業種も続々と参入し、市場は急拡大しているが、その一方で、さまざまな工事が招いたトラブルも各地で発生している。そうしたなか、千代石(株)（河東田清八郎社長）が供養重視の視点で考案し、県認可の公共土木業者や一級建築士、造園事業者な

ど協賛専門家の力を集結して開発・設計した「骨壺納骨型樹木葬墓地」（以下、本樹木葬）が、他社と一線を画す樹木葬として人気を集めている。同社では、石材店が樹木葬墓地を展開するにあたり、寺院への提案から樹木葬墓地の施工・販売に至るまで総合的にサポートする相縁事業部を社内を設置していたが、本事業の営業及び受け入れ体制をさらに拡充・強化するため、八月一日付けで新オフィスを開設。本社機能を移転するとともに、同事業部を相縁本部に改称して新たにスタートすることになった。

本樹木葬の基本理念や特徴、施工事例などは、本誌二〇二三年二月号及び四月号、六月号で詳しく紹介しているが、そのポイントを整理すると以下のとおりとなる。

## 特許庁申請図面



再生細粒石 水流水圧で空気層を押し込み緻密な地盤を何層も重ね合わせ仕上げています。

水抜き用・浸透排水パイプ 墓地内に雨水を貯めないように、穴の空いた排水用パイプを設置。浸透圧によりパイプに溜まった水を、墓地の外に排水します。

吸水口  
浸透排水パイプ  
集水マット  
集水マットで排水パイプを包み、パイプの穴を保護します。

### ①骨壺のまま納骨できる

遺骨を別の容器に移し替えたり、粉骨する必要がない。参列者の祈りが込められた遺骨は「尊骨」になるといわれおり、その尊厳性を保ちながら納骨・供養できる。

※遺骨を移し替える方法では、準備や作業に加え、残された骨壺を処分する必要があったが、その手間と経費が不要となる（完売後は、そのために仮設事務所などを現地に存続する必要がなくなり、ランニングコストの削減にもなる）。

### ②協賛専門家集団による優れた耐久設計

さまざまな分野のプロと開発した独自の技術・工法を採用。基礎工事は、しっかり転圧した地盤を複数の層で形成し、土中に染み込んだ雨水を浸透圧で墓地の外に排水するパイプが埋設されている（特許申請中＝特願2022-21361）。

※既存の樹木葬のなかには、土木の専門知識・経験のない造園業者に施工を丸投げするケースがあり、不慣れた施工や排水工事の不備などが原因で集中豪雨や凍結等により納骨ポットがズレたり、浮き上がるトラブルが報告さ

れている。本樹木葬であれば、三十三年や五十年など長期にわたる永代供養に充分耐えられる構造となっている。

### ③現在のニーズに対応

葬儀単価が大きく落ち込むなか、高級タイプの骨壺を売ることと収益を確保しようとする業界側の意向と、「せっかくなにか大金を支払ったのだから、お気に入りの骨壺のまま納骨したい（されたい）」という施主側の要望にも応えられる。

また現在の樹木葬には複数の埋葬形態が存在し、顧客の選択肢が広がった結果、遺骨を別の容器に移し替えたり粉末することに違和感や抵抗感を覚える人が増加。そうした不満も骨壺納骨にすることで解消できる。

最近では、顧客から「納骨のとき、お骨はどう扱うの？」と質問される場面もあり、「骨壺納骨」が墓地や供養施設を選ぶ際の重要なキーワードにもなっている。

### ④異業種や他社との差別化に有効

協賛石材店をエリア制で募集し、その石材店だけが本樹木葬を扱えるので、異業種や他社と



※中面の詳細記事もご覧ください。

# 大規模「骨壺納骨型樹木葬墓地」 この秋、続々オープン予定！

千代石株(本社)横濱市神奈川区

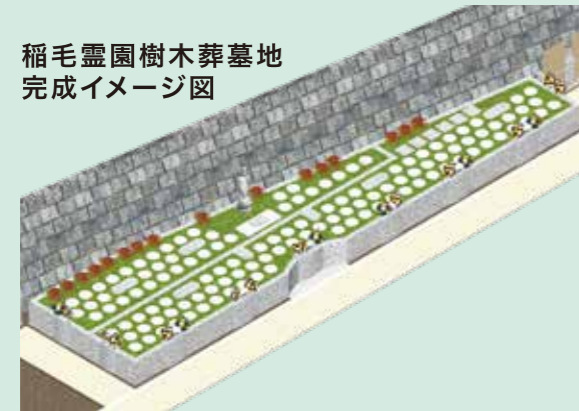


私が、千代石にて重要視しているのは、供養の継承とご寺院様との絆です。樹木葬には創成期から携わってきましたが、当初はこの業者も30年後、50年後よりも今を考え、利益ありきの簡素な工事や利益ありきの販売スキルをご寺院様へ提案してきました。それではだめなんです。ご寺院様は、この樹木葬墓地をお寺の一大プロジェクトと考え、次世代住職に譲り渡し管理する覚悟で我々にお任せいただいているのです。千代石では、過去の経験、反省を踏まえ、工事は私の考えに賛同してくれた各方面のプロ達とともに弊社が作り上げた工法を用い、長い期間にわたってご寺院様が安心、安全に管理できるような樹木葬墓地を作りあげました。そして、この樹木葬墓地をきっかけに、供養の大切さを伝え続け、供養によってお客様とご寺院様を結び、未来に向けてご寺院様での新しい供養の形を構築してまいります。

千代石株式会社 河東田 清八郎

千代石株(本社)横濱市神奈川区、河東田清八郎社長)が供養重視の視点で考案し、協賛専門家の力を集結して設計・開発した「骨壺納骨型樹木葬墓地」(以下、本樹木葬)が首都圏で快進撃を続けている。異業種や他社の樹木葬とは一線を画す樹木葬としてその評価を高めているが、最近特に目立つのが百区画以上の大規模な開発事例だ。これは、自治体の条例などで墓地開発の規制が厳しさを増すなか、樹木葬の人气が一般区画の墓地を大きく上回り、新規の受け皿として完全に定着していることを示すもの。一般墓地を中心とする霊園は、開園までに膨大な資金と時間、手続き等が必要で、完売するまでに時間がかかるのが難点とされるが、「骨壺集合体(一区画扱い)」である樹木葬墓地は、開発・拡張等のメリットが大きい。また寺院敷地内の未利用地や改葬(墓じまい)等で返還された空きスペース、あるいは将来の備えとして確保しておいた広大な敷地など、それぞれの規模や予算に応じて柔軟に開発できるのが大きな特徴であり、しかも抜群の集客力があり、販売スピード(初期投資の回収)も優れることから、「これから新しく墓地をつくるなら樹木葬墓地しかない」という流れに完全にマッチしているともいえるだろう。

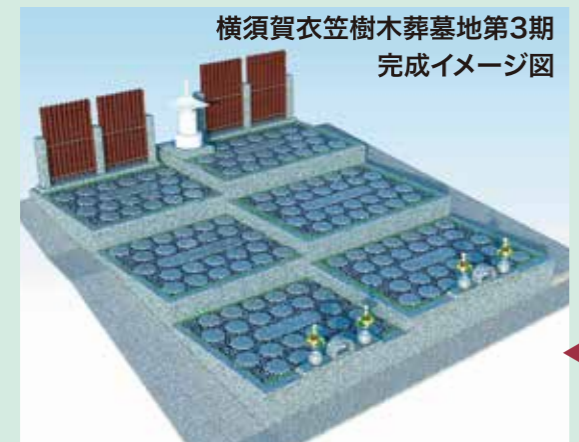
## この秋オープン予定の大規模「骨壺納骨型樹木葬墓地」



稲毛霊園樹木葬墓地  
完成イメージ図



▲10月中旬オープン予定  
稲毛霊園樹木葬墓地 第1期  
(2期・3期も計画あり)  
120区画



横須賀衣笠樹木葬墓地第3期  
完成イメージ図

▲11月オープン予定  
横須賀衣笠樹木葬墓地 第3期  
147区画

湘南エリアでも、今秋100区画以上の  
大規模「骨壺納骨型樹木葬墓地」がオープン予定です。

弊社の「骨壺納骨型樹木葬墓地」  
を用いて、新事業を始めてみませんか。

ご寺院様を通して供養の大切さを  
継承させていただける石材店様を募っています。  
相縁本部まで、お気軽にお問い合わせください。

TEL 045-620-8424  
(火・水曜定休)

ちよせき 千代石株式会社 相縁本部  
〒221-0822神奈川県横浜市神奈川区西神奈川1-6-15桜ビル906

同社では、本樹木葬を地元の石材店とともに普及・促進を図るため、社内に相縁本部を設置してさまざまな業務を支援しているが、本事業の営業及び受け入れ体制をさらに拡充・強化すべきと判断。八月一日付けで本社機能を同じ市内の交通至便な場所へ移転し、相縁本部の拠点として活動していくことになった。本樹木葬の理念や特徴などは中面の記事をご覧いただきたい。これから新たに誕生する樹木葬墓地は、「骨壺納骨型」が主流になる時代が来るかも知れない。